

平成24年度第2回鳥取県日野地区連携・共同協議会（会議概要）

- 1 日 時 平成25年1月31日（木）午後4時35分～5時35分
- 2 場 所 江府町防災情報センター研修室
- 3 出席者 平井鳥取県知事、竹内江府町長（会長）、景山日野町長、増原日南町長
ほか鳥取県及び日野郡3町関係職員

4 あいさつ（要旨）

【竹内会長】：新しい年を迎え新しい国の姿という中で何か経済対策という慌しい中でございます。そうはいいながらじっくりと構えてやってきたこと、やっていること、そして新しく頑張ろうということを協議させて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

【平井知事】：5月になりますと奥大山会場を中心として植樹祭の波がやってくるわけでございます。今時分はおしどりも賑やかに日野川に来とられますし、また山並みを綴る美しい光景もあるわけでございます。

ただ私たち日野郡のまとまりの中でどうやって住民の皆さんに満足して頂けるようなそういうところを見出すのか、その辺がこれからの務めではないかなというふうに思います。

今日も若手の農業者の方とお話をしていました。やっぱり若い人なりに頑張って盛り立てようという気持ちで一杯ですけれども、鳥獣被害のことであるとか、我々としても共同してやっていかなければならないことがよくわかります。

今までこの場を活用しまして色々なことができてきました。今日もここに虎の巻のようなものがございますが、消費者相談その需要にこたえていこうと、お年寄りが騙されないようにしようじゃないか、こんなことも進んできましたし、相談の窓口も3町共同の中で開かれてきました。また鳥獣被害対策を全体でやろうという話しも出てきましたし、教育だとかまた障がい者のためのなたね作り、さらに障がい者雇用というようなことにも踏み出してきました。また、土木関係では、江府町、日南町を中心としましてある意味共同化も進んでまいりまして、色々やってみるとできるものだなと思ってきました。これからも3町の町長さんを始め皆様の情熱を何とか柱にしましていい行政サービスを提供できる体制を作ってまいりたいと思っております。

竹内町長のお話もございましたように、今景気対策などが忙しい中での今日の集まりであります。県としても300億を超える補正予算を用意することになりそうです。多分皆さんのところも結構な額になると思います。政権が変わりまして空気、風が変わってきたと、これを是非上手に取り込んで我々のこの枠組みの中から実りをもたらしていければというふうに思います。本日も皆様の積極的な御参加により、色んな道が開かれていくことをお祈り申し上げまして、御礼とさせていただきます。今日は本当にどうもありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

5 会議録署名委員の指名

竹内会長が「日野町の景山町長」、「日南町の増原町長」2名を指名

6 報 告

- (1) 平成24年度事業実施状況について
- (2) 平成24年度収支の状況について

事務局高田事務長から資料により説明、執行残額は、3月幹事会で報告し各町、県に返納予定

7 協議事項（重点項目等）

- (1) 道路維持等専門部会の取組状況について
- (2) 農業分野等専門部会の取組状況について
- (3) 監査専門部会の取組状況について
- (4) 新しく取り組む重点項目について
- (5) 鳥取県日野地区連携・共同協議会の規約改正等について

事務局高田事務長及び各部会長から資料により説明

8 議 事

- (1) 第1号議案「平成24年度事業計画（案）について」 ⇒ 承認
- (2) 第2号議案「平成24年度歳入歳出予算（案）について」 ⇒ 承認
- (3) 第3号議案「平成24年度負担金（案）の決定について」 ⇒ 承認

事務局の高田事務長及び各部会長から資料により説明

9 意見概要

<鳥獣害対策>

【景山町長】：24年は日野郡ではイノシシ被害が少なかったと思う。将来のデータにおいても東部から始まって中部まではシカの被害が非常に多い。

一番の問題点は、猟友会の皆さん方が高齢化となり鉄砲を撃つ方がいないことと、山野を駆け巡ることはかなりの体力が必要。日野町においては、罾とか柵とかでしのいでいるという現況について、猟友会の皆さん方はどういう考えを持っておられるか。

【澤田農林局長】：日野郡3町の猟友会も高齢化でなかなか会員が少なく後継者がいないということで悩んでおられる。ただ猟友会の方は獲るのは我々の仕事で、柵の設置は、農家の方に頑張ってもらいたいと言っておられるが、取組については協力をしたいと、何か協力するものはないかということも言っておられた。

【景山町長】：各町ではイノシシやヌートリアを捕獲する事業をしており、農家の皆さん方が主になって、或いは猟友会の皆さん方も頑張ってもらっているが、ここに出ている新たな事業は、いわゆる狩猟される方を育てるとするのが最大の目的なのかどうかをお聞きしたい。

【澤田農林局長】：最大の目的は、狩猟者後継者の確保。実施隊を各町1名ずつ非常勤で採用して、そのうちの2名は狩猟免許を持った方、1名の方は免許を持っていない方の3名が一緒になって後継者を育てて翌年には免許を取って頂こうと考えたもの。

そうすれば3名の方が郡内を歩きながら狩猟や対策もでき、経験も積ませるということを考えている。

【増原町長】：イノシシには町境や県境がなく、猟友会は町単位、自分のエリアは守ろうとしてもなかなか他の町に入ることができないことから、猟友会の後継者を作る目的といいながら、今までの猟友会とはある程度違う形になると思う。

これまでベテランの方と新しい方が一緒にチームで動くことはなかなか無く、難しいと思うが、新しい組織でうまく連携を持ちながら、新しい日野郡3町の、もしかしたら伯耆町も入るかもしれないが、そういうことを含めた鳥獣対策という認識でいいと思う。

【平井知事】：今、両町長さんからお話があったことに大賛成。まず鳥獣被害対策に日野郡全体で一致してやっていこうというのは、これは是非、進めたほうがいいと思います。今のうちから手を打っておこうということで猟友会の一本化といいますか、日野郡全体が入っていくことなど、まさに先見性のある取組だと思えます。

県もそうしたノウハウの提供とか、人材の育成、色んなツールがありますので最近では岡山県の伊原木知事さんとお話しをしましたが、人材育成を共同でやっていこうということも言っています。結局教え合える人がそんなに数一杯いるわけではないので、そういう方々に岡山の人に来てもらうとか、逆にこっちからも行きますとか、県境を越えても共同化を考え始めております。そういう人材育成のやり方を日野郡の中でも活用してもらっていい方向に行けばいいじゃないかなと思います。

<道路維持・除雪>

【増原町長】：内部から除雪単価の整理を県一本ではなく、日野郡の単価を実態に合わせて考えて欲しいという意見が出ており、来年の冬までにはしっかりと、ある程度日野郡の単価というものを定めていく必要があるのではと思う。

道路維持の関係で、日野郡の中の安全の区画線の事業をなぜこの時期にやるのかという御指摘を頂いた。道路の線なり歩道の線をなぜ今の時期に行うのかと、この地域は雪が降るので、スタッドレス、スパイク、チェーンを装着している車もあり、この時期に線を引いても春には消えているということを感じる。

国、県、町と違って、地元からみれば誰がやっても一緒と見られるわけで、できるだけ維持工事の中で、町等が受けていき、その時期に合わせた、地域に合わせた施工をやっていく必要があるのではと思う。

国道、県道の安全基準を踏まえて、もうどこでどの工事をやろうと、お上がやっているというふうにとられてしまうので、町がやろうと、県がやろうと、国がやろうと、3町で町自身がやっていって、一元化していったほうがいいのではないかなと思う。

予算を頂いて地域の中で雇用して、安心安全な道路整備を行うことが方向として良いのではと思う。今の道路維持の方向は、非常に良い方向に進んできているのではないかと認識している。

【平井知事】：何か県の方でも特区みたいなことを考えて、単価の面もそうですし、それから基準の面もそうです。ローカルルールをやれるように我々も来年の雪のシーズンまでなのかもしれませんが是非考えてみたいと思います。

単価のことも、若干規制のことも含めて、それぞれの町のやり方に馴染むように県の方も適合した形で委託をさせて頂くという方法を考えたいと思います。

【竹内会長】：知事のほうからも県の方向性といえますか、考えにつきまして詳細に御説明頂きました。そういう部分では大きく飛躍できる部分があるかと思えます。

このたび新しく取り組む重点項目について、日野郡3町の教育のあり方について重点項目としてこの会議で御理解が得られれば今後の重要な施策として議論を始めさせて頂ければと思います。御意見を頂戴いたします。

<日野郡3町の教育のあり方>

【平井知事】：県庁のほうで予算編成作業をやっており、県教委とも議論する中で、日野高校のあり方に県教委として懸念を持ち始めていることが私のほうに伝わってきます。

今回この教育のあり方を3町で考える中で、是非県の日野高校の話も正面から、どういうふうに地域の中で日野高校を生かすお考えを日野郡の各町でまとめられるのか、そこも今後の方針の中に、是非検討に加えて頂けると多分整合性が出てくると思えます。

例えば隠岐の島のような高校の地元の盛り立て方、活用の仕方といえますか、そうしたその地元の思いがあるんだろうかということも言い始めております。

日野郡3町は学校の統合も進み小中の体制もある意味コントロールしやすくなっており、それを3町がさらに束ねて教育としていい体制を作ろうと、そうすると15歳までいい子ができるわけでございます。15歳から先の18歳までも視野に入れながらどういうふうに共同でものを作っていくのかを考えて頂ければ本当はいいのではないかなというふうに思います。

県のほうでも来年度予算で日野高校のあり方をどうするかという予算を考えかけているところで、これと共同して検討したほうがいいのではないかなと思いましたので、3町と県とでこれ自体採択して頂ければいいと思いますが、検討の方向性の中に加えて頂ければありがたいなと思います。

【増原町長】：平成24年度では、日野郡の中で50名も産まれていない中、できればその方たちがずっと中学校までいくと、1学年が10名の小学校であっても、日野郡の小学校は魅力的であるねと、米子や都会からでも日野郡の小学校に行ってみたいねと、先ず小学校と中学校も含めて日野郡の中で、その役割を教育委員会として考えて欲しい、行政も一緒になって考えていくという使命があると思う。

日野高校もあり、海士町の例もあって教育委員会から来年には海士町の高校の先生や教育の関係者を呼んで講演会をするという話も若干聞いており、それはそれで一緒に並行してやればいいのかと思うし、お互いの勉強でやればいいのかと思う。

ただ方向的に今考えていかなければいけないのは、この小学校は魅力的だよねというものには教育委員会だけの役割ではなくて、街づくりとか定住対策とか仕事の問題とかも含めたトータルもので考えていかないと、10人産まれた子どもたちが入学するときには12人になったり、13人になったりするような街づくりを一緒になってやっていきましょうと、その中で教育委員会はどういう役割を担うのかということも、我々も考えるけども教育委員会も考えてくださいという投げかけをしているんですが、知事が言われたような教育委員会が考えられた予算があるとしても県の予算で一緒になってやるような意識を持たないと、もう総力戦の話であり、教育委員会がとか、町の部局がという時代ではないという議論の状態ではないと。

まして今の自民党の新しい政権が考えている教育委員会の姿にしても、まず間違いなくそういう姿ではないというふうに思っているので、それをやはり日野郡の中でもう一緒に考えていこうという動きをしたいということを我々は思います。

【景山町長】：この中でちょっと引っかかるのが日野郡3町の教育委員会の共同設置を考えるというところまで踏み込んであり、私たち3町長が今やっているのは、23年の10月に立ち上げた日野高校を考えていこうと、これからの日野高校を魅力ある高校にどうしたらいいだろうかということで町長や教育委員会、PTA、郡内の企業の皆さん方、中学校の校長先生とかに集まって頂いて今色々な話し合いをしています。

この秋大体1年経ったので、今までの議論を取りまとめて、教育長さんに届けました。募集をかけてもなかなか応じてくれないということで、非常に気に留めて頂いておりますし、我々もその中にあまり飛び込むということではなくて行政として地域の住民としてどう支えていけばいいのか、日野高校を私は地元の町長として、何とか残していきたい。総合事務所と日野高校が消えたら本当に日野町は全く姿が変わってしまうわけで、今一生懸命になってやっております、教育委員会にもこの会に出て頂いております。

そうしてさらに発展してこの3町連携で、日野高校のあり方をさらに考えていこうという案については、私は大賛成でして是非知事さんも含めて、そういうことになれば県教委も含めてのお話し合いの場ができればこれは皆の思いだと思います。

日野郡の子どもだけで日野高校を支えていくことはもうできません。産まれてくる子どもが少ないわけですので、やはりよそから来て頂く、海士町の島前高校みたいに極端なことを言うと日本中から是非行ってみたい高校だということでもっとおしかけるといようなそういう姿を夢みているわけで、鳥取県内はもとより、少なくとも中国5県から日野高校はいいなということでやっていきたいと思っております。

もう一つは、その前段として私の町は0歳から15歳までの切れ目の無い教育というものをして今やっています。0歳というのは胎教からです。そうしてずっと中学校までそこで切れてしまうわけですし、その上に高校が乗っかってくれば、またさらに内容が充実してくるのではと思っておりますが、今何年か0歳から15歳までの教育をやったその成果が現れつつあり、日野町バージョンでまたお伝えできるのではと思っております。

それから日野高校もこういう3町長が元気を出してやり出した成果が、この春には若干現れるのではないかとということが私の耳にも入ってきており、やはり皆で力をあわせて知恵を出し合うと違うんだなという気持ちが今してきていますので、是非ともこれをして頂けたらいいと思っておりますが、本当に教育委員会の共同設置を考えるということまで一気に踏み込むことまでいかなくとも、やはり日野郡の教育を本当に考えていくんだというところに視点を持っていけばどうだろうかという気持ちがしているところです。

その結果がやはり一つの教育委員会にしたらいかなということになればその方向に向かっていけばいいと思っておりますが、新しい試みとしてそこまで持つていくのは私はいかなものかなと思っておりますし、その他については本当にいい考えではないかなと、もうそういう時期に来たかなと思っております。

【竹内会長】：色々意見を頂きました。日野郡の教育のあり方を考えると、保育所から高校までの教育を考えると、そういう街づくりや色々な観点からやはり出発しなくては行けないと、重点項目にあげなくては行けないということは意思統一頂いたと思っております。

景山町長から共同設置の部分について御意見がありました。私の一つの考えでいきま

すと、日野郡の現状を踏まえての〇三つというものをしっかりとやりながら、次いで時期は別としてやはりその必要性が見えてくると、そのようなことから多少言葉でうたっているところもありますので、御理解頂ければ、こういう形を一つの議論として日野郡の教育を進めたときには、共同設置ということも出てくるであろうという方向性の中でということで、御理解を頂ければと思いますがいかがでしょうか。

【景山町長】：ありきではなくて、会長さんがおっしゃったようにその結果これがいいではないかということではいけないと思います。

【竹内会長】：新たな重点項目の中で第2回の協議会で日野郡3町の教育のあり方をスタートするという御理解を頂きたいと思います。

議案として第1号議案、第2号議案、第3号議案、多少の増額でよろしく願いしたいということです。いかがでしょうか。

はい、ありがとうございます。異議なしというお言葉も頂戴致しまして、ではこれで25年度頑張っていくということですので。